

子育て支援施設(子どもの館・子育てふれあい交流プラザ)

指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 平成30年10月26日(金) 14:00~16:45
- 2 場 所 北九州市役所 本庁舎15階 15C会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 田中構成員(座長)、大谷構成員、角見構成員、
齊藤構成員、西村構成員
(事務局) 子ども家庭局総務企画課長、企画係長、担当職員

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明
- 構成員の互選により、座長を選出
- 検討会の位置づけ・概要、応募状況及び議事次第等について、事務局より説明
- プレゼンテーションの方法、採点の注意事項について、事務局より説明
- 応募団体の提案概要に関してヒアリング
- 質疑応答

○ 応募団体より提案概要に関してヒアリング

(構成員) 民間活力を比較的発揮しやすい施設であると考えているが、現状維持のような指定管理料の設定であるように感じる。

新しい取組みが盛り込まれているが、それによる収入はわずか。一方支出については、人件費が大幅増となっており、経営的な視点でみると、収支バランスが保たれていないと感じる。

施設を運営するにあたり、経費圧縮、収入アップなどに関する取組や強みはあるか。

(応募団体) 入館料が低いため、最低賃金の上昇による人件費の上昇分を補うことは困難な状況である。また、施設内で実施するイベント・講座などの参加料等も収入の増加の要素となるが、低い入館料に対し、参加料を高く設定することは割高感を与えるので、なかなか難しい。

10年以上の運営経験の中で、どのような経費削減策があるか模索してきたが、入館者の急激な増加が望めない中、維持補修費・人件費をどう捻出していくのか難しい課題である。

- (構成員) いろいろな分野の民間企業が参画している組織体である。各社の知恵を結集し、営業時間・入館者数などを見極め、適正な人員配置をするなど、もっと民間ノウハウの活用を検討すべき。
- (構成員) 利用者からの苦情の対応に「PDCAを使って」とあるが、具体的にどのような苦情があり、どのように対応しているのか。
- (応募団体) 利用者間のトラブルや、子どもが走り回って危ないので、「しっかり管理してくれ」という案件が大半を占めている。これについては、施設の職員間でしっかりと情報共有し、見守りの強化等につなげている。
- (構成員) 「地域の住民や地域団体との連携」とあるが、どのように取り組んでいるのか。
- (応募団体) 例えば「子育てふれあい交流プラザ」では、10年以上前から、「出張元気のもり」という取組みを実施している。簡単な遊具と職員2名、それから施設内に入居している子育て支援サロン「ぴあちえーれ」の職員が同伴し、年間20～30回市民センターを巡回し、地域と連携した遊び場の提供を行っている。
- (構成員) 「利用者の声を迅速に活かすアンケートの実施、活用効果」とあるが、アンケートは子ども対象ではなく親対象になっている。今回提案のあった新規事業は、子どものニーズにマッチした事業となっているのか。どのようなリサーチに基づいてこれらの事業を考案したのか。
- (応募団体) 具体的に利用者のニーズを調査したわけではないが、児童虐待など昨今の社会情勢を踏まえ、「家族の絆を深めたい」「家族の愛が大切」という思いを強くし、これらの事業を考案した。

○ 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換

- (構成員) 施設は経年劣化を重ね古くなっていく。指定管理業務の範囲外になると思うが、次の世代の子どもたちが初めて行ったときにも楽しい気分になれるよう、必要な改修を行って欲しい。
- (構成員) 新規事業もいろいろ立ち上げているが、それぞれ費用がかかりそう。実現がどれ程できるのか気になるが、しっかりやって欲しい。
- (構成員) 「子どもの館」立ち上げの際は、客が満員で本当に楽しそうで、ボランティアも充実していた。最近は、少し客もボランティアも減少してきているように感じる。幼児教育は、遊びから学ぶ。地域の団体とも協力しながら、施設のPRも含め、利用促進を図っていただきたい。
- (構成員) 利益追求施設ではないのは承知してはいるが、現実的にみると「経営」という視点が弱いように感じる。施設をよくしたいという思いは非常に伝わってくる。これからの民間活力の発揮に期待したい。

(構成員) 正規職員の人件費が少し高すぎるのではないかと感じた。現状維持のままで、その辺の見直しをしていない気がする。

(構成員) 新規事業について、ユーザーのニーズとの乖離があるように感じる。その事業を子どもが本当に必要としているのか、親が本当に子どもにそれを学ばせたいと思っているのか、検証が必要。団体側の思いが先走っているようにも感じられる。

長年、施設運営に従事し時間が経つにつれ、ユーザーの目線や地域連携の視点等が全般的に薄くなり、ニーズとの乖離が起きているのではないか。組織としても、運営に関してもコストパフォーマンスの問題を再検討すべきである。行政もそういった視点を持ってやって欲しい。

○ 事務局は合計得点を発表し、検討会として、応募団体が市の要求水準をみたしており、指定管理者として相応しいと判断された。

○ 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。